

第2回検討部会の振り返り

【検討項目】

- 1 新たな観光財源を必要とする理由
- 2 使途の在り方について
 - (1) 使途の方向性について（案）
 - (2) 使途の具体的な項目
 - (3) 新たな財源を活用した事業の規模について
 - (4) 新たな財源の確保額について
- 3 その他検討が必要な項目
負担の免除，基金の創設，特別徴収義務者への配慮，新税の名称

【総括】

- 新たな財源の確保策として宿泊税を導入することが適していると考えられる。
その財源で基金を創設し，緊急時に国や道よりいち早く市内観光関連事業者
に支援が行き渡る仕組みが必要。
- 税率や，課税免除・免税点などについては，納税者にわかりやすく宿泊事業者の
負担を軽減するためにも簡素であることが望ましく，宿泊税の導入を検討して
いる北海道や道内自治体の制度設計ともある程度合わせる必要がある。
- 市内の宿泊事業者が反対している理由などを聞き取り，それを踏まえた上で検討
を進めるべきであることから，事務局と事業者とで意見交換の場を設け，その
結果を次回の検討部会までに委員に示した上で検討を継続する。